

令和元年度 教育事業（地域力向上事業）
ふれあいワークキャンプ（10年目）

1 事業概要

不登校やひきこもりがちな若者が「働くこと」をテーマに2泊3日の共同（協働）生活に取り組んだ。柑橘類の収穫（第1次産業）×加工（第2次産業）×チラシづくり（第3次産業）の「6次産業」の体験を行った。参加者は、様々な活動を通して、職業観を育み、勤労に対する心情を高めることができた。



2 事業の目的（ねらい）

柑橘の摘み取り作業、加工、チラシ作成を体験することで、働くことの意義を体感する。また、参加者や農家、地域の方々との交流や共同（協働）生活を通して、たくましい生き方や心豊かな生き方を感じ、自立への力を育てる。

3 企画のポイント

不登校及びひきこもりがちな生徒を対象に、様々な体験活動を実施することで、立ち直りの支援や社会性や就労意欲の向上を図ることを目指した。また、「6次産業」について、第1次産業の農業体験から第2次産業としての加工体験、第3次産業としての販売につなげるための「チラシづくり教室」などの職場体験や活動等を行う構成とし、県内の適応指導教室に参加を呼びかけて「ふれあいワークキャンプ」を企画した。

自然体験や生活体験、就労体験等を積ませることで自主性や社会性が生まれ、心身共に健康な生活を送るためのきっかけづくりができるのではないかと考える。また、2泊3日の活動では、就労体験のほかに、レクリエーションを通して参加者同士の関わりが深まり、他人を思いやる気持ちや自尊感情を高めることも期待できる。



4 主催 独立行政法人国立青少年

教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 共催 大洲市教育委員会

6 後援 愛媛県教育委員会

7 期日 令和元年11月19日（火）～21日（木）

8 場所 八幡浜市向灘「濱田農園」 国立大洲青少年交流の家

9 対象 不登校及びひきこもりがちな小学生・中学生・高校生・青年

10 参加人数 13名（募集人数10名程度）

11 参加費 中学生以上4,000円 小学生3,920円

12 講師 株式会社濱田農園 代表 濱田 直人 氏、濱田 善純 氏
 株式会社アトリウム 代表取締役社長 國分 美由紀 氏
 笹川写真館 土居 百合子 氏

13 日 程

時間	19日(火)	20日(水)	21日(木)
6:00		起床	起床
7:00		朝のつどい・食事	朝のつどい・食事
8:00		準備・移動	退所準備
9:00	受付	加工体験	チラシづくり教室
10:00	開会行事・アイスブレイク	(所内調理室)	(所内シアタールーム)
11:00	めあてづくり・昼食	講師：國分氏	講師：土居氏
12:00	移動	昼食	閉会行事・解散
13:00	収穫体験	加工体験	
14:00	(濱田農園)	(所内調理室)	
15:00	講師：濱田氏、濱田氏	講師：國分氏	
16:00	移動	片付け	
17:00	タベのつどい・夕食	タベのつどい・夕食	
18:00	自由時間	自由時間	
19:00	カプラ	ボッチャ	
20:00	ふりかえり・入浴	ふりかえり・入浴	
21:00	就寝準備	就寝準備	
22:00	就寝	就寝	

14 活動内容

【1日目】

「開会行事・アイスブレイク」(10:00~11:00)

交流の家において、所長あいさつ、スタッフ紹介を行った。「6次産業」について学習したり、活動内容をスライドで紹介し、見通しがもてるように3日間の活動をイメージしたりした。また、緊張をほぐす時間、お互いを知る時間として、自己紹介を交えたアイスブレイクを行った。

「収穫体験」(13:30~16:00) 講師：濱田 直人 氏、濱田 善純 氏

八幡浜市向灘に移動し、講師の濱田氏からみかんの収穫作業の方法について教わったり、日の丸みかんのおいしさについての話を聞いたりした。収穫作業では、足下が悪い中を、一人一人がはさみを持ち、収穫を行った。最後に、みかんの入ったコンテナを持つ体験をしたり、大きさによる選別の機械を見せてもらったりした。また、愛情をもってみかんに手をかけて育てることや栽培の工夫等の話を聞いたりすることもできた。



「カプラ」(19:00~20:00)

夕食後に、カプラを使った創作活動を行った。はじめに、チームで制限時間にどのくらいの高さまで積み上げることができるかチャレンジをした。次に、全員で「ナイアガラの滝」を作成した。

【2日目】

「加工体験」(9:00~12:00・13:00~15:00) 講師：國分 美由紀 氏

隣接する八幡浜で開催された「ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」実行委員会委員の國分氏より、愛媛の柑橘類の魅力や規格外の収穫物を生かすために國分氏が取り組んだことなどの話やマーマレード大会についての話があった。

その後、調理室に移動し、1日目で収穫したみかんとグラニュー糖、レモン汁のみで無添加のマーマレード作りを行った。2つの班でみかんの皮を洗うことからはじめ、皮と身に選別した。皮は切り揃え、身は絞って、汁と薄皮に分けた。それぞれを余すことなく煮込み、マーマレードができあがった。最後に、煮沸消毒をした瓶に詰め込み完成した。



午後からも同じ工程を行った。午前中よりも、見通しをもっている分手際よく作業を進めることができた。作業を終えた後は、できたてのマーマレードを試食した。

「ポッチャ」(19:00~20:00)

参加者、指導者混合のチームを作り、ポッチャでチーム対抗戦を行った。参加者はねらいを定めて、ポッチャの競技を体験した。

【3日目】

「チラシづくり教室」(9:00~11:00) 講師：土居 百合子 氏

最終日は、大洲市の写真館職員、土居氏に2日目に作り上げたマーマレードを仮に売るとしたらどのようなチラシの写真を撮ったらよいかということで話を聞き、チラシ作成のための写真撮影を行った。



カメラの使い方、効果的な写真の構図について具体的に話をしてもらい、グループで前日に作ったマーマレードや収穫したみかんを被写体にして写真撮影に挑戦した。

1.4 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：38.5% *やや満足：61.5% *やや不満：0% *不満：0%

- 普段できない体験や愛媛のたくさんの人達とふれ合うことができうれしかった。家にいると生活が乱れることがあるので2泊3日以上泊まって友達を増やしたい。
- 事業中きちんと起きられたので、自分が起きられないのは次の日に楽しみなことがないからだと思った。
- 仕事における工夫などを知ることができた。

1.5 事業の成果

1日目農業、2日目加工業、3日目販売の流れで、「6次産業」の仕組みも学ぶことができ、仕事をしている人は日々時代の流れに合わせて様々なことを考えていることに気付くことのできる事業となった。さらに、事前と事後でIKR調査を行った。「自分から進んで何でもやる」「自分のことが大好きである」など前向きに行動しようとする姿勢が向上した。「だれにでも話しかけることができる」「だれにでも、仲良くできる」等のコミュニケーションの項目においても、講師や参加者同士の関わりの中で向上が見られた。

1.6 事業の課題

参加者の指導者の方から、就労体験という観点では、収穫の際に、コンテナを運んだり、収穫の時間をかけたりするなど、体力的な負担を与えることも必要ではないかという声もあった。今回の事業では、参加者の人数が多かった分、一人にかかる作業が少なかったり、本来の働く大変さについて実感するところが少なかったりしていた。今後、小学生も受け入れしているので、バランスを考えてプログラムの構成を行っていきたい。

(担当：主任企画指導専門職 清水 大輔)